

キタ！からきた



だより

第173号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。

kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛



「こんなところに社会福祉士がいた！」

<大阪北支部・会員リレー紹介 040> レポーター（島岡繁希）

カムバック投稿
紙配信されていなかった
記事を再投稿します！
令和5年3月号より

今回ご紹介するのは、一般社団法人「こもれび」の理事、水流添真さんです。

2010年大阪市西区で起きた二児餓死事件をきっかけに「こんな華やかな街で、なんでこんなことが起こるんや」との思いから使命感を抱き、2013年に同区で「ひとりぼっちをつくらない」を理念とした法人「ゼロひゃく相談支援センター」を社会福祉士の奥様と一緒に立ち上げました。障がい児・者の計画相談を中心に、子育て相談、高齢者の介護相談等に応じる事業所として、0歳から100歳以上の方までを対象とした相談支援事業を開始、児童発達支援等の法定事業のほか、子どもの居場所づくり等の独自事業を実施し、制度のはざまに陥る子どもたちへのサポートを展開されています。

そんな水流添さんは奥様と共に「後先考えずにやっちゃう」性格で、「資源がなかったらつくろうよ！」と、「今もやりたいことはいっぱい」と話されます。実は理系の大学・大学院を卒業され、福祉との出会いは大学生のときに体験した障がい児の保育ボランティア、老健でのボランティアでした。「こんな世界があるのか」と衝撃を受けたそうです。社会人1年目のシステムエンジニアのとき、知り合いからのご縁で介護の業界に飛び込み、経験を重ねるなかで、「目の前の介護だけでなく、その方の暮らし全体を考える仕事をしたい」と社会福祉士の資格を取得されています。

社会福祉士として大切にされていることは、「制度の狭間」を埋める、その方の生きる力が強まる、支援につなげていくことです。法人内・外でつなぎ、共に関わる実践を重ね、現在は行政からの相談も増えてきました。「10年経って、浸透してきたかなあ」と行政・関係機関との連携を大切にされています。夢は「思いを持った人が増えてほしい、みんなが思いを持てば可能性が広がる」と、研修で話をするときも熱が入ると話してくれました。「たのしく、しんけん」をモットーにされている水流添さんにインタビューさせて頂き、私も楽しい時間を過ごせました。



大阪北支部主催『気づきの事例検討会（11/9）』の報告



令和6年11月9日（土）ドーンセンターで開催された、気づきの事例検討会に事例提供者として参加しました。気づきの事例提供会では、稲松真人先生をスーパーバイザーに迎え、渡部律子先生のテキストを基に、再アセスメントの重要性、多面的・総合的なアセスメントの必要性、プロセスの振り返りなど、ゆっくり時間をかけた事例検討を行なっています。事例作成時や事例検討での振り返りで、「困りごとを抱える利用者さんと一緒に、自分自身も困ってしまっていたな」「問題だけに目が行ってしまい、情報が深まっていなかったな」など、これまでの支援に対しての気づきや、自分の関わり方の「クセ」を再認識することができました。

稲松先生をスーパーバイザーに迎えての気づきの事例検討会も2021年から4年目になり、一緒に事例検討を重ねてきたメンバーも増えてきました。サポートティブで和やかな雰囲気ながらも的確な質問や意見をいただき、とても贅沢な時間だと感じました。また、事例検討会への参加が支部活動のきっかけだったこともあり、事例検討会の重要性を再確認することができた会でもありました。

事例検討会は、私のような対人援助勉強中の支援者さんも、経験の長いベテランの支援者さんも、ともに多くの学びを得ることができるのが魅力だと感じています。今後も継続して参加していきたいと思っています。



★大阪北支部公式LINEアカウントのお知らせ（※他支部の方の登録也大歓迎です！！）

情報が早い！情報が手元に届く支部公式LINE。目標としていた200名の登録を突破しました！

LINE「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

